

プレスリリース

EDIM'16

SYMPOSIUM ON EDUCATION DESIGN AND
INFORMATION MEDIA 2016

教育デザインと情報メディアを考える
シンポジウム 2016

開催趣旨

青山学院大学情報メディアセンターは12月10日（土）に教育と情報の未来を考える場「EDIM'16」を開催する。特別ゲストに東京藝術大学の佐藤雅彦教授を招致。これまでに研究開発してきた教育方法と表現方法をピタゴラススイッチや考えるカラスなどの実践交えて紹介。この他に青山学院大学・高等部・中等部での教育実践報告や、産学連携講演としてマイクロソフトによる未来の教育デザインを紹介する。参加無料、要事前申し込み。

特別講演

こうすると見えてくる/こうすると伝わる/こうすると分かってしまう ーコミュニケーションデザインの方法の作り方

東京藝術大学大学院映像研究科教授 佐藤雅彦

他講演予定：日本マイクロソフト株式会社 / 青山学院中・高等部 / 青山学院大学

開催概要

- タイトル 日：教育デザインと情報メディアを考えるシンポジウム2016
英：SYMPOSIUM ON EDUCATION DESIGN AND INFORMATION MEDIA 2016
略：EDIM'16（ヨミ：エディムワンシックス）
- テーマ 映える / POP UP
- 開催日程 2016年12月10日 土曜日 13:00-18:00（受付開始 12:30）
- 開催場所 青山学院大学 青山キャンパス 総研ビル（14号館）12階 大会議室
- エントリー 参加無料・事前登録制・定員250名（特設WEBサイトからエントリー）
- 特設WEB <https://symp.aim.aoyama.ac.jp/2016/>

お問い合わせ

青山学院大学附置情報メディアセンター シンポジウム担当：村上

E-mail：symp2016@aim.aoyama.ac.jp

*可能な限りお問い合わせはメールにてお願い致します。

2016年11月28日

特別講演者プロフィール



Photo : Takuji Okada

佐藤雅彦

masahiko sato

東京藝術大学大学院映像研究科教授
慶應義塾大学環境情報学部客員教授

1954年静岡県生まれ。東京大学教育学部卒業。1999年より慶應義塾大学環境情報学部教授。2006年より、東京藝術大学大学院映像研究科教授。専門は、教育方法と表現方法。

「どうしたら、それが伝わるか」をテーマに、映像・アニメーション・グラフィックデザインにおける新しい表現手法を開発。脳科学の知見を基とした表現の研究など、分野を超えた活動を行っている。

主な表現作品

TV-CM：サントリーモルツ「うまいんだな、これが」「缶紅茶ピコー」、湖池屋「スコーン」「ドンタコス」「ポリンキー」、NEC「パズールでござーる」、JR東日本「ジャンジャカジャーン」、TOYOTA「カローラIIにのって」など。ゲーム：プレイステーションソフト「I.Q」、iTunesソフト「pavlov」など。/ 著作：「佐藤雅彦全仕事」（マドラ出版）、「毎月新聞」（毎日新聞社）、「経済ってそういうことだったのか会議」（竹中平蔵氏との共著・日本経済新聞社）、「プチ哲学」（マガジンハウス）、「もぐらバス」（偕成社）、「差分」（美術出版社）、「日常にひそむ数理曲線」（ベネッセ教育研究開発センター・小学館）、「考えの整頓」（暮らしの手帖社）など。/ テレビ番組：NHK教育テレビ「ピタゴラスイッチ」、NHK教育テレビ「2355/0655」、NHK教育テレビ「考えるカラス」（全て企画・監修）/ 作詞・作曲：「だんご3兄弟」（作詞）、「カローラ2に乗って」、ピタゴラスイッチや0655/2355の番組内の歌など。/ 展覧会：「計算の庭」（森美術館）、「佐藤雅彦研究室展」（g.g.g.）、「君の身体を変換してみよ展」（ICC）、「これも自分と認めざるをえない展」（21_21DESIGNSIGHT）、「指を置く展」（g.g.g.）など。

主な受賞歴

朝日広告賞最高賞、ADC賞グランプリ、ACCグランプリ、1991年クリエイター・オブ・ザ・イヤー、毎日デザイン賞、スロバキア・ドナウ賞、NHK日本賞総務大臣賞、ニューヨークADC賞金賞、2011年度日本数学会賞出版賞、2012年D&AD賞、平成23年度芸術選奨受賞、平成25年度紫綬褒章受章、2014年度カンヌ国際映画祭短編部門正式招待上映など。

提供素材

ご自由にお使いいただける提供素材を用意しています。

下記リンク先の資料をご使用ください。

<https://symp.aim.aoyama.ac.jp/material/>